

社会科（地理的分野）学習指導案

日時 平成30年6月1日（金）公開授業Ⅰ
学級 岩手大学教育学部附属中学校
1年C組35名
会場 2C2D教室
授業者 木村 義輝

1 単元名 第3章 世界の諸地域 1節 アジア州

2 単元について

(1) 生徒観

これまで生徒は社会科の基本的な学習の流れを身に付けるとともに、地球儀や地図帳、資料集等を用いた作業的な学習を多く取り入れて学習してきた。また、単元全体が問題解決的な学習となるように単元を貫く学習課題を設定して、生徒に学習課題をしっかりと把握させ、その解決への見通しをもたせながら学習を展開してきた。問題解決の場面では、4人グループで協働して調べたり、意見を交換したりする機会を意図的に設定してきたことで、【知識・技能】については一定の定着が見られる。しかし、【思考力・判断力・表現力】を育成するための、考察や構想（選択・判断）、説明、議論等の学習活動を十分に保障してきたとはいえないのが現状である。

前単元の「世界各地の人々の生活と環境」では、地域によって気候の違いがあり、それに合わせて人々がどのような工夫をしながら生活を営んでいるかを学んできた。本単元「世界の諸地域」の学習にあたり、生徒がアジア州にどのようなイメージを抱いているかを知るためにコンセプトマップを作成させた。最も多かったのは「日本」を中心にしたもので、それを除くと「中国」を中心に、「経済成長」、「人口」、「大気汚染」、「パンダ」、「領土問題」など、次に「北朝鮮」を中心に「ミサイル」、「核」などがみられた。これらは、普段のテレビや新聞等を通して断片的に記憶しているものと思われる。コンセプトマップの広がりには多くの生徒でみられなかった。また、小学校6年生の「世界の中の日本」の学習では、教科書で取り上げている、アメリカ（9名）、韓国（10名）、サウジアラビア（6名）、中国（8名）から1か国を選択して調べ学習を行ってきている。

アジア州は生徒にとって身近な地域であり興味・関心も高い。本単元では生徒の学習意欲を喚起しながら、アジア州の地球的課題として大気汚染の問題を取り上げる。アジア州の地域的特色や今まで見えていないであろう地球的課題の実態を見えるようにさせるとともに、「持続可能な社会」づくりに向けての視点をもたせられるような指導を心がけていきたい。

(2) 教材観

【図1】 国連で採択された持続可能な開発目標 (SDGs)

世界の諸地域の学習について、新学習指導要領では、地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことなどの要請を受け、地球的課題の視点が導入された。地球的課題については、「地域間の共通性に気づき、我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定すること」や、「州ごとに異なるものとなるようにすること」とともに、①各州の地域的特色と関連して、その地域において特徴的に見られること、②地球的課題の地域的な要因や影響を捉えやすいことなどに留意する必要があるとしている。さらに、地球的課題の例として、2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された、「持続可能な開発目標 (SDGs)」(【図1】) が示されている。これは、17のグローバル目標と169のターゲット(達成基準)からなっている。

学習対象として六つの州を基本とする点、まずは州ごとに「地域的特色を大観」する点、その上で「主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動」を行う点は現行の学習指導要領の取り扱いと同様である。本単元は現行の学習指導要領を基本としながら、地球的課題を各州の学習に位置づけつつ、主題と地球的課題を関連付けながら学習を展開していく(【表1】)。



【表1 世界の諸地域学習における学習配列・主題と地球的課題の関連】

	地域	主題	取り扱う「持続可能な開発目標」(SDGs)
1	アジア州	巨大な人口と急速な経済発展	ゴール 11 (都市化に伴う大気汚染)
2	ヨーロッパ州	国境をこえた結びつきによる変化	ゴール 10 (国内および国家間の不平等の是正)
3	アフリカ州	人々の生活の変化と自立への課題	ゴール 1 (貧困)
4	北アメリカ州	世界に影響を与える産業と文化	ゴール 13 (気候変動・地球温暖化)
5	南アメリカ州	進む開発と環境問題	ゴール 15 (森林の持続可能な管理)
6	オセアニア州	多文化社会の形成とアジアとの結びつき	ゴール 15 (生態系の保護)

(3) 学びの本質に迫る指導とその評価について

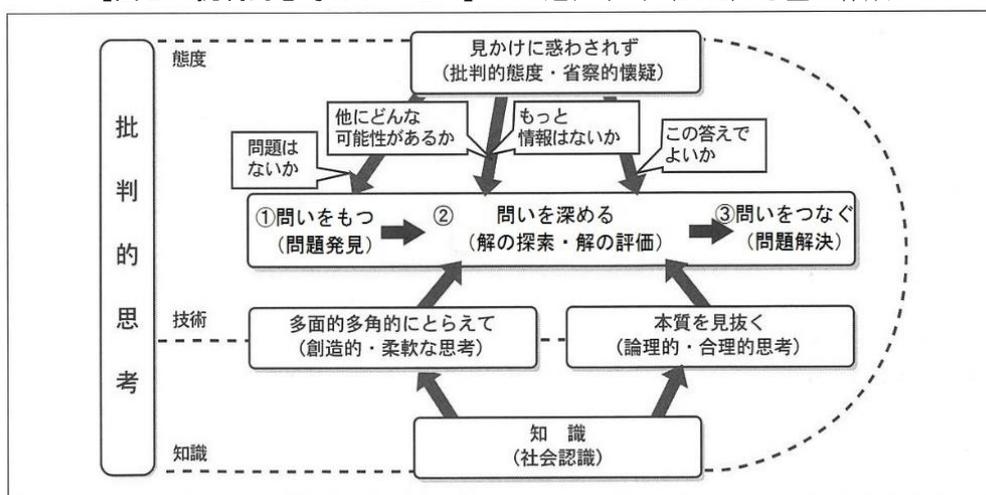
本校社会科では、「批判的思考力を高め、社会参画の意識をもつ」ことを学びの本質とし、次の視点から指導・評価を行っていく。

指導の視点1 批判的思考力を高める学習プロセスの工夫

「批判的思考のプロセス」(【図2】)を本単元に位置付けると、「①問いをもつ」(【表2】)段階は、アジア州を貫く学習課題を設定するために地域的特色を大観する1時間目と2時間目である。世界の諸地域の学習では、各州の自然環境や特色を1時間で大観させて単元を貫く学習課題を設定するのが基本的な流れであるが、本単元では前述したように主題を「巨大な人口と急速な経済発展」と設定したうえで、地球的課題として大気汚染の問題を取り上げながら「②問いを深め」ていく。そのため、追究する過程で生徒の思考が途切れないようにするために、農業の特色についても自然環境や人口と関連付けながら大観させる。

「②問いを深める」段階は、アジア州を4つの地域に分けて追究していく3～6時間目の学習である。ここではおもに知識を習得させることと、資料活用の技能を鍛えながら、各地域の地域的特色を捉えさせていく。ここでの学習内容をもとに、7時間目以降を「③問いをつなぐ」段階と位置づけ、「単元のパフォーマンス課題」に取り組みさせていく。レポートを作成することで「ア 全体構造を把握する」ことや、相互評価や自己評価を通して「イ 学習成果が転移・応用可能かどうか考え」させて問題解決に向かわせていきたい。

【図2 批判的思考のプロセス】 ※道田泰司(2001)を基に作成



【表2 批判的思考力を高める具体的な学習活動】

① 問いをもつ	② 問いを深める	③ 問いをつなぐ
ア 社会的事象を的確にとらえる。 イ 社会的事象相互の関係構造を把握する。 ウ 課題を発見・把握する。 エ 解決の見通しを立てる。	ア 資料を収集し、読み取り、読み取った情報を記述する。 イ 社会的事象の意義や意味を解釈する。 ウ 社会的事象間の関連を説明する。 エ 自分の意見をまとめて論述する。	ア 全体構造を把握する。 イ 学習成果が転移・応用可能かどうか考える。 ウ 他単元、他分野、他教科や実社会とのかかわりを見いだす。

指導の視点2 追究意欲を喚起する教材発掘・開発

アジア州は生徒にとって身近な地域であり興味・関心も高く、小学校での学習や生活経験から様々な知識を既に有している。毎日のニュースや新聞でもアジア州に関わる出来事は多く報道され、天気予報ではPM2.5の飛散状況が必ず伝えられる。しかし、一つひとつの知識の理解については、断片的で不確かなものも多く、正しく理解しているとは必ずしも言えないのが実情である。

本単元では、「巨大な人口と経済発展」を追究の主題として設定し、地球的課題の一つである大気汚染の問題を関連付けて考察させていく。日本も深刻な影響を受けているPM2.5は、中国を起点として発生している問題と捉えている生徒が多いことが予想される。しかし、実際は法改正や厳しい環境基準を設定することで、近年大幅に改善が図られており、現在アジア州で最も危機的な国はインドであることが諸調査の結果で明らかになっている。この認識のズレを生かして生徒の追究意欲を喚起していきたいと考える。また、東南アジアは安い賃金を背景に多くの企業が近年進出している地域であり、今後工業化が大きく進むことが見込まれる地域である。

西アジアや中央アジアは他の地域とは異なり、人口は少ないものの豊富な資源を背景に急速な経済発展を遂げた。しかし、砂漠に囲まれたこの地域の国々は、大気中の塵などの影響もありPM2.5の年平均濃度は非常に高い。西アジアや中央アジアでは砂漠化が進行していて、各国もその対策に取り組んでいる。地球的課題の一つである砂漠化の問題は、宅地や農地を拡大するために森林を伐採したり、無理な灌漑を行ったりすることで進行していくため、人口増加の問題と密接に関連している。

このようにアジアを大きく4つの地域に区分して見ていくと、それぞれの地域で大気汚染の問題を抱えてはいるが、その進行の度合いや原因は地域ごとに大きく異なっている。新学習指導要領で示されている「見方・考え方」の「④地域」には、「現在の地域だけでなく、変容してきた、変容していく地域も視野に入れ、過去、現在、未来を見通す観点も必要である」と示されている。アジア州の大気汚染の現状を時間軸で見ると、経済成長を果たし徐々に回復に向かっている東アジア（過去・現在）、汚染が現在進行している南アジア（現在）、今後深刻な問題になるであろう東南アジア（未来）という構図が見えてくる。「地域」という視点や「空間的な広がり」との関わりに着目して繰り返し社会的事象を捉え（見方）、他地域との結びつきや人間の営みと関連付けて考察させていく（考え方）なかで、生徒の「見方・考え方」を鍛えていきたい。

評価の視点1 社会的な見方・考え方の深まりの自覚化～「学びの本質に迫るための評価」～

「学びの本質に迫るための評価」として、「学習のための評価」、「学習としての評価」（二宮 2015）の場面を単元の中に位置付けていく。

「学習のための評価」を有効に機能させるために、「②問いを深める」段階の学習課題に対してのまとめをOPPシートに毎時記述させ、ここで身につけた知識や技能をもとに単元末のパフォーマンス課題に取り組ませていく。パフォーマンス課題に取り組ませる前や、生徒が作成したレポートに対して、目標に対する到達度合いを質的、あるいは量的に示して、改善の方策を具体的にフィードバックしていく。

また、授業中においては机間巡視や観察を通して、その都度フィードバックしたり、生徒の発言や優れた記述を意図的に取り上げたりすることで教師の評価基準を間接的に生徒に伝え、フィードバックが備えるべきとされる「学習者にとっての利用しやすさ」（二宮 2015）を保障していきたい。

「学習としての評価」の場面では、パフォーマンス課題で作成したレポートを相互評価させることで、評価活動へ生徒を参加させていく。そのなかで、優れたレポートの特徴を考えさせたり、学習過程を振り返らせたりすることで、自身の手で学習改善の方策を獲得させていき、メタ認知能力の育成をねらっていく。

評価の視点2 表現力に着目したパフォーマンス課題～「学びの本質に迫ったかを見とる評価」～

本単元では、西岡（2016）が提唱する「逆向き設計」論に基づき、後述する「単元のパフォーマンス課題」に取り組ませる計画である。

パフォーマンス課題を用いたパフォーマンス評価とは、「知識やスキルを使いこなす（活用・応用・総合）ことを求めるような評価方法の総称」（西岡 2016）のことである。また、石岡（2015）は、知識には階層があり、「知識の獲得と定着（知っている・できる）」、「知識の意味理解と洗練（わかる）」、「知識の有意味な使用と創造（使える）」の質的なレベルがあることを示している。「知っている・できる」知識は客観テストで見取りやすいが、「使える」知識は「真正の文脈における活動や作品に基づく評価」が

必要であるとされる。

そこで、「パフォーマンス課題のシナリオに盛り込むべき6要素（目的・役割・相手・状況・作品・観点）」（西岡 2016）に基づきパフォーマンス課題を設定するとともに、教師が何を評価しようとしているかについて生徒と共有するためにルーブリックは事前に生徒に提示する。これは、学習のゴールを明確にして生徒に見通しをもたせたり、単位時間の学習を単元のゴールと関連付けながら追究させたりするための手立てである。なお、これは初めてパフォーマンス課題に取り組む1年生への指導の工夫であり、学年や扱う内容によって当然変わるものである。

3 単元の指導計画および評価計画

(1) 育成を目指す資質・能力

【知識・技能】

- ① アジア州における地理に関する理解。
- ② 地図や景観写真などの諸資料から、地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能。

【思考力・判断力・表現力等】

- ③ アジア州に関わる社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地域に見られる課題を把握し、複数の立場や意見を踏まえて構想（選択・判断）したりする力。
- ④ 趣旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的に説明する力。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ⑤ アジア州に関する社会的事象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究したり、地理的な諸課題の解決を視野に社会に関わろうとしたりする態度。
- ⑥ 他者の考えをよく聴き（傾聴）、それをもとに話し合ったり、協働して課題を解決しようとする態度。

(2) 指導目標

アジア州について、巨大な人口と急速な経済発展に注目して主題を設定し、地球的課題と関連付けながら地域の特長や課題を追究したり解決したりする学習活動を通じて地域的特色をとらえさせるとともに、地域の持続発展を考察させ、持続可能な社会づくりを目指す態度を養う。

(3) 評価規準（○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価）

	社会的事象等についての 知識・技能	社会的事象等についての 思考・判断・表現	社会的事象等に 主体的に関わろうとする態度
観 点	○ アジア州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題をもとに地域的特色と地球的課題の現れ方が異なることを理解し、その知識を身につけている。 ○ アジア州の地域的特色に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	○●アジア州で見られる地球的課題の要因や影響を、地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	● アジア州の地域的特色を主体的に追究、解決しようとしている。

(4) 指導と評価の計画 (○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価)

段階 時	学習課題 ・ 学習内容 ◆指導の留意点	評価規準	評価の観点							
			知技	認識	態度					
単元 の 導 入	<p>現在、地球はどのような課題を抱えているのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3章では世界を6つの州に分けて学習していくことを知り、今後の学習の見通しをもつ。 ・地球的課題の解決に向けて世界全体で取り組んでいる「持続可能な開発目標(SDGs)」や「持続可能な社会」とは何か理解する。 ・アジア州に関して知っていることを想起させ、コンセプトマップを作成する。 ◆見方・考え方の広がりメタ認知させて「学びの自覚化」を促すために、コンセプトマップはアジア州の学習後に再度作成させる。 	<p>地球的課題が何かについて関心をもち、主体的に追究しようとしている。</p>			○					
も つ 1	<p>アジア州では、地形や気候、人口にはどのような特色がみられるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の自然環境、気候(季節風の影響)、人口(世界人口の6割がアジアに集中中、一人っ子政策)に関するそれぞれの特色を理解する。 ◆次時は、本時で学習した気候の影響を受けている農業の特色を大観させたいので、アジア州を貫く学習課題を設定していく。 	<p>自然環境の特色を理解し、その知識を身につけている。</p>	○							
も つ 2	<p>アジアでは、なぜ地域によって異なる農業が発達してきたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア州における農業分布や東南アジアでみられる特色ある農業(二期作・プランテーション)について理解する。 ◆主な農業と年間降水量を比較することで、地域による農業の違いと、農業と降水量との関係を見いだすことができるようにする。 ◆アジア州の人口の多さに着目させながら、アジア州を貫く学習課題を設定する。 <p>【アジア州を貫く学習課題】</p> <p>人口が集中するアジアには、どのような地球的課題があるのか。</p>	<p>降水量や農業分布などの資料を活用して、地域の特色や関連性などを読み取っている。</p>	○							
深 め る 3 本 時	<p>なぜ中国では大気汚染が深刻なのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国の大気汚染の実態(急速な工業化と環境対策)と、大気汚染は環境対策をすることで解決可能な問題であることを理解する。 ◆単元のパフォーマンス課題とルーブリックを提示する。 	<p>中国の大気汚染の実態と、大気汚染は環境対策をすることで解決可能な問題であることを理解し、その知識を身につけている。</p>	○							
	<p>【単元のパフォーマンス課題の提示】</p> <p>あなたは、「持続可能な開発目標」の達成に向けて、アジアの大気汚染を改善するための取り組みをしている国連の責任者です。アジア各地域で取り組みをしているものの、目標達成の度合いが低いため、アジアの4つの地域の取り組み担当者を国連に集めて現状について説明を受けました。そこであなたは、各地域でみられる大気汚染の現状や特色をもとに、今後国連として「重点的に環境対策に取り組む地域はどこか」について、A4一枚のレポートにまとめて「国連持続可能な開発サミット」で提案することになりました。できるだけ具体的な根拠をあげて、説得力のある提案をしてください。</p>									
	<p>◆教師が何を評価しようとしているかについて生徒と共有するためにルーブリックを事前に提示する。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B評価の評価項目を満たしつつ、1つ以上の点について、とくに優れていると判断されるものを含んでいるもの。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>以下の4つの評価項目について、おおむね満たしていると判断されるもの。 ① より良い地域を目指す持続発展的なものである。 ② これまでの学習成果が生かされているものである。 ③ 他地域の問題と比較したものである。 ④ 根拠を示しながら、自分の考えを主張しているものである。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>B評価の評価項目について、とくに不十分と判断されるものが含まれていたり、全体的に不十分と判断されたりするもの。</td> </tr> </table> <p>※生徒の作品完成後に、改めて、それらを用いてルーブリックづくりを行う。</p>					A	B評価の評価項目を満たしつつ、1つ以上の点について、とくに優れていると判断されるものを含んでいるもの。	B	以下の4つの評価項目について、おおむね満たしていると判断されるもの。 ① より良い地域を目指す持続発展的なものである。 ② これまでの学習成果が生かされているものである。 ③ 他地域の問題と比較したものである。 ④ 根拠を示しながら、自分の考えを主張しているものである。	C
A	B評価の評価項目を満たしつつ、1つ以上の点について、とくに優れていると判断されるものを含んでいるもの。									
B	以下の4つの評価項目について、おおむね満たしていると判断されるもの。 ① より良い地域を目指す持続発展的なものである。 ② これまでの学習成果が生かされているものである。 ③ 他地域の問題と比較したものである。 ④ 根拠を示しながら、自分の考えを主張しているものである。									
C	B評価の評価項目について、とくに不十分と判断されるものが含まれていたり、全体的に不十分と判断されたりするもの。									

階時	学習課題 ・ 学習内容 ◆指導の留意点	評価規準	評価の観点		
			知技	思考	態度
深める 4	<p>なぜインドの大気汚染は深刻になったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インドを中心に南アジアの産業の特色（カースト制度の影響や情報通信技術関連産業の発達）を理解する。 ・インドの大気汚染の実態と、環境対策が進んでいないために深刻さが増していることを理解する。 ◆「空気が汚い都市ワースト 20」（WHO 2016）にインドから 10 都市がランクインしている資料を導入で示して学習課題を設定する。（中国は 4 都市のランクイン） ◆インドの石炭消費量は中国の 6 分の 1 ほどに過ぎないが、石炭火力発電所の性能が低く、近年大気汚染が急速に進行している。今後の人口増加と経済成長でさらに悪化することが予測されているが、環境対策が進んでいないことを扱う。 ◆4～6 時間目の終結では、毎時の学習終了時点での「重点的に環境対策に取り組む地域」はどこかの判断について意見交流する。 	南アジアの産業の特色と大気汚染の実態、環境対策が進んでいないことを理解し、その知識を身につけている。	○		
深める 5	<p>東南アジアでは、どのように工業化が進んでいるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの工業化の実態（華人の活躍や安い賃金、東南アジア諸国連合、アジア NIES）について理解する。 ・現在アジアの他の地域に比べて大気汚染は進んでいないが、今後の工業化に備えて環境対策が重要であることを理解する。 ◆東南アジアにおける電力需要は 2011～2035 年の間に 83% 増との予測（環境保護団体「グリーンピース」2017）があり、今後工業化が大きく進むことが見込まれる地域である。二酸化炭素や大気汚染物質の排出量や、大気汚染関連の死者の増加が予想されているため、今後の環境対策が重要であることを扱う。 	東南アジアの工業化の実態と、今後の環境対策が重要であることを理解し、その知識を身につけている。	○		
深める 6	<p>なぜ人口が少ない西アジアと中央アジアでも大気汚染が広がっているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西アジアや中央アジアの経済成長と資源開発（パイプラインや石油輸出国機構）との関連について理解する。 ・砂漠などの自然環境の影響を受けて大気が汚染されることを理解する。 ◆西アジアや中央アジアは、他のアジアの地域と比べて人口が少ないにもかかわらず、大きな経済成長をしている地域である。他の地域との比較を通して経済成長を果たしている要因（資源）を資料から読み取らせて理解させる。 ◆PM2.5 の年間平均濃度が最も高かったのはザール（イラン）である（WHO 2016）。大気汚染の原因は、工場や自動車などの人為起源のもの、火山や大気中の塵など自然起源のものがあり、自然環境の影響も受けていることを扱う。 ◆砂漠化は宅地や農地を拡大するために森林を伐採したり、無理な灌漑を行ったりすることで進行していくため、人口増加の問題と密接に関連していることについて説明する。 	自然環境の影響を受けて大気が汚染されることを理解し、その知識を身につけている。 町並みや人々の生活の変化、原油生産や輸出の実態などについて資料から適切に読み取っている。	○		
つなぐ 7	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のパフォーマンス課題に取り組む。 ◆実力を正確に評価するために授業時間内のみの取り組みとする。 ◆教科書、資料集、地図帳など手元にあるものはすべて使用してよいこととする。 ◆3～6 時間目に生徒に提示した資料を配付する。 	地球的課題と地域的特色を関連付けて多面的・多角的に考察し・表現している。		●	●
つなぐ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・発表と相互評価（学習としての評価） ◆ルーブリックの A に該当する作品の特徴を話し合わせるとともに、自分の作品を自己評価させることで、改善点をメタ認知させる。 ◆「次回レポートを作成する際にどんなことに気を付ければよいか」について考えさせ、次の単元でのパフォーマンス課題への取り組みにつなげさせる。 	アジア州の地域的特色を主体的に追究、解決しようしたり、次の学習に向けての学習意欲が高まったりしている。		○	○
事後	<ul style="list-style-type: none"> ・教師による評価及びフィードバック ◆改善の方策を具体的に生徒に示し、評価規準を生徒と共有する。 ・アジア州についてのコンセプトマップを作成する。 ◆キーワード相互の関係に説明を加えたり、記述する位置取りを考えたりするように指示する。 				

4 本時について

(1) 主題 経済発展を急速にとげた中国

(2) 指導目標

アジア州の地球的課題である大気汚染の問題について、中国を中心とした東アジアの地域的特色と大気汚染の問題について複数資料を関連付けて考察させ、生徒の見方・考え方を広げる。

(3) 評価規準

中国の大気汚染の実態と、大気汚染は環境対策を取ることで解決可能な問題であることを理解し、その知識を身につけている。【社会的事象等についての知識・技能】

(4) 指導と評価の構想

本時はアジア州を大観する2時間を経て設定されたアジア州を貫く学習課題について、中国を中心とした東アジアの地域的特色と地球的課題を関連付けて考察させていく1時間である。

本時の導入では、アジア州の追究主題である人口の集中に関わって、中国の交通渋滞と自動車の廃棄の様子から、大気汚染の問題に目を向けさせていく。ここでは、地球温暖化(二酸化炭素)と大気汚染(排出ガス等)の問題の原因をしっかりと整理しながら学習課題を設定していきたい。

展開では、学習課題に対しての予想を立てさせ、3つの資料を関連付けて考察させていく。検証を通して、人口と工業化、大気汚染の関係や中国の経済発展の様子をおさえさせる。一方、東アジアに位置する日本も、人口が多く(世界11位2017)、工業が盛んな国だと言えるが、中国のように大気汚染は深刻ではない。その要因には、高度経済成長期に深刻な環境問題が発生したものの、国をあげて克服に努めてきた歴史的背景がある。そこから導入での資料を想起させ、「中国ではどのような対策をしているのか」という、新たな問いをもたせていきたい。現在の中国の環境対策やその結果をつかませた上で、複数資料を関連付けて全体構造を把握させていく。

「地域」という視点(見方)で東アジアと捉えると、深刻な環境問題を克服してきた日本や、克服に向かって改善傾向にある中国など、変容していく地域の姿が見えてくる。また、PM2.5の分布図を読み取らせることで、大気汚染は中国だけの問題ではなく、アジア州全域に「空間的な広がり」をもつ地球的課題であることに気づかせていきたい。その理解の上で、アジア州を4つの地域に分けて、「地域」や「空間的な広がり」という視点(見方)から繰り返し社会的事象を捉えさせ、他地域と比較したり、結びつけたりして考察(考え方)させていくことで、生徒の見方・考え方を広げていきたい。

展開の最後にパフォーマンス課題とルーブリックを提示し、今後の学習の見通しをもたせていく。単元計画の3時間目から6時間目までの「②問いを深める」段階の毎時のまとめは、パフォーマンス課題作成の際の手掛かりとなるようにOPPシートに記述させ、適切にフィードバックしていく。

(5) 本時の展開(次ページ)

5 参考文献

- 新井祥穂(2012)『帝国書院 地理シリーズ 世界の国々¹ アジア州①』帝国書院
- 石井英真(2015)『今求められる学力と学びとは-コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影-』日本標準
- 石川憲二(2015)『PM2.5危機の本質と対応-日本の環境技術が世界を救う-』日刊工業
- 川名英之(2011)『世界の環境問題-第7巻 中国-』緑風出版
- 澤井陽介(2017)『「主体的・対話的で深い学び」の授業改善 授業の見方』東洋館出版社
- 澤井陽介・加藤寿朗(2017)『見方・考え方[社会科編]「見方・考え方」を働かせる真の授業の姿とは?』東洋館出版社
- 奈須正裕(2017)『「資質・能力」と学びのメカニズム』東洋館出版社
- 西岡加奈恵他(2015)『新しい教育評価入門-人を育てる評価のために』有斐閣
- 西岡加奈恵(2016)『教科と総合学習のカリキュラム設計 パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化
- 饒村曜(2013)『最新図解 PM2.5と大気汚染がわかる本』オーム
- 畠山史郎・三浦和彦(2014)『みんなが知りたいPM2.5の疑問25』成山堂
- 畠山史郎・野口恒(2016)『もっと知りたいPM2.5の科学』日刊工業
- 三藤あさみ・西岡加奈恵(2010)『パフォーマンス評価にどう取り組むか-中学校社会科のカリキュラムと授業づくり-』日本標準

(5) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応や提示する資料等	時間 (分)	指導上の留意点および評価 ・学びの本質に関わる指導の手立て等 ○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価
導入	1 中国の大気汚染の現状をつかむ。 2 学習課題の設定	5	・「①問いをもつ」ウ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> なぜ中国では大気汚染が深刻なのか。 </div>			
展開	3 予想（結果の見通し） ・人口増加 ・急速な工業化 ・自動車の増加 ・対策× 4 資料の読み取りと発表 資料1 大都市と人口分布 資料2 工業のさかんな地域 資料3 二酸化硫黄の排出量 5 日本の大気汚染の変容と中国の環境対策を知る。 ・中国ではどのような対策をしているか。 ・対策の結果は？ 6 資料を関連付けて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 中国の大気汚染問題は対策を取ることで改善してきた。しかし、まだまだPM2.5の値は高く、今後も対策が必要である。 </div> 7 PM2.5の分布図を読み取る。 ・他のアジア州の地域では？ ・他の州では？ 8 単元のパフォーマンス課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> あなたは、「持続可能な開発目標」の達成に向けて、アジアの大気汚染を改善するための取り組みをしている国連の責任者です。アジア各地域で取り組みをしているものの、目標達成の度合いが低いため、アジアの4つの地域の取り組み担当者を国連に集めて現状について説明を受けました。そこであなたは、各地域でみられる大気汚染の現状や特色をもとに、今後国連として「重点的に環境対策に取り組む地域はどこか」について、A4一枚のレポートにまとめて「国連持続可能な開発サミット」で提案することになりました。できるだけ具体的な根拠をあげて、説得力のある提案をしてください。 </div>	40	・「②問いを深める」ア ・人口と工業化，大気汚染の関係，中国の経済発展の様子をしっかりとおさえさせる。 ・「①問いをもつ」ウ ・「③問いをつなぐ」ア ・「中国の大気汚染問題について資料から言えること」は何か考えさせる。 ・大気汚染はアジア州全域の地球的課題であることをおさえる（一般的共通性）。 ・OPPシートを配付しルーブリックを示す。
終結	9 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 人口が多い中国は、経済特区をつくるなどして工業化が進み、「世界の工場」とよばれるようになった。しかし、沿岸部を中心に大気汚染の原因物質の排出量が多いため、様々な対策をとったことで改善が見られたが、環境基準を満たしていないため、まだまだ対策が必要である。 </div>	5	○中国の大気汚染の実態と、大気汚染は環境対策をとることで解決可能な問題であることを理解し、その知識を身につけている。【知識・技能】